

平成27年度決算における財政指標

経常収支比率

地方自治体の財政状況を判断するのに用いられる数値のひとつに経常収支比率があります。

これは毎年経常的に収入されるお金が、経常的な支出にどのくらい使われたのかを割合で示した数値です。この数値が低いと自由に使えるお金が多く、財政にゆとりがあることになります。一方、数値が高くなると使いみちが決まった支出が多く、財政状況は厳しく硬直化しているといえます。

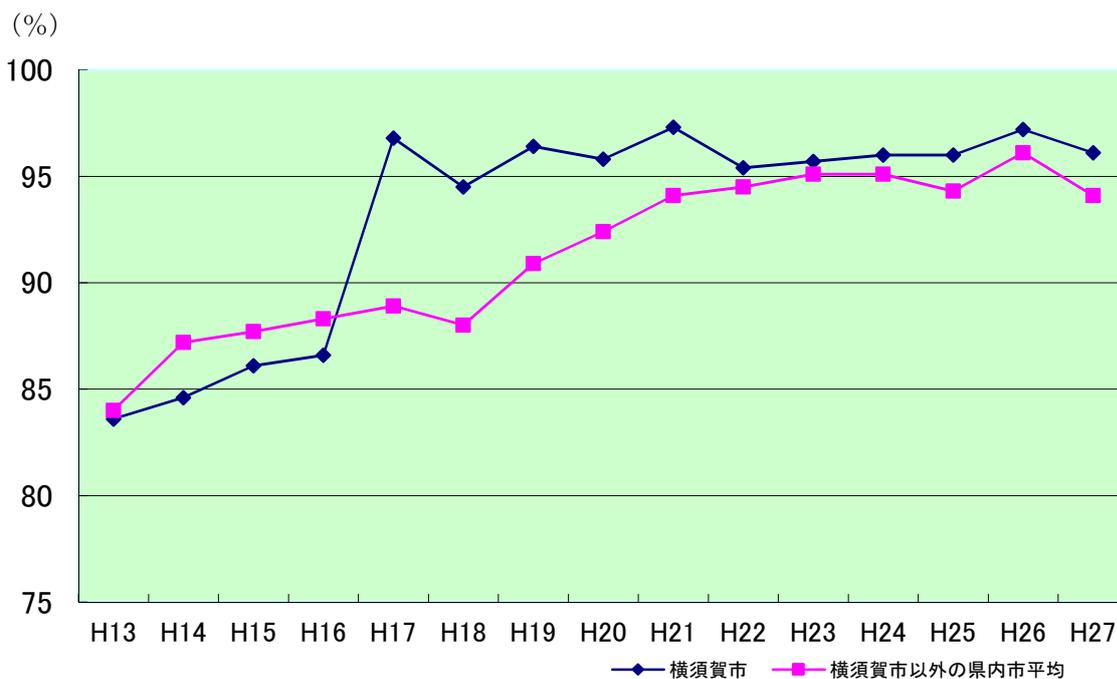
本市の平成27年度の経常収支比率は、前年度比1.1ポイント改善し、96.1%となりました。

これは、歳出面での社会保障経費（障害福祉サービスの給付等の扶助費や国民健康保険等への他会計繰出金など）の増を、歳入面での税収の増や地方消費税交付金の増が上回ったことによります。

しかし、近年、景気の低迷や行政サービスの多様化などにより全国的に経常収支比率は高い水準で推移しています。

本市も例外ではなく、平成13年度以降、数値は上昇傾向にあります。

経常収支比率の推移



年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
横須賀市	83.6	84.6	86.1	86.6	96.8	94.5	96.4	95.8	97.3	95.4	95.7	96.0	96.0	97.2	96.1
県内市平均	84.0	87.2	87.7	88.3	88.9	88.0	90.9	92.4	94.1	94.5	95.1	95.1	94.3	96.1	94.1

※県内市平均は横須賀市を除く。

起債制限比率

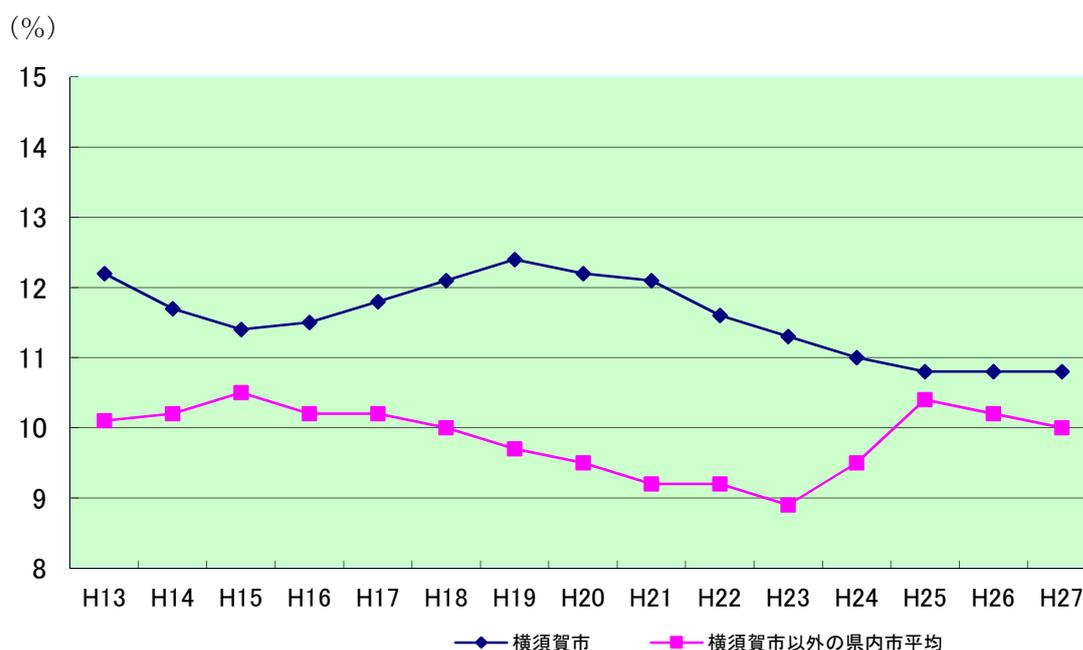
市税収入のように自由に使うことのできる収入のうち、公債費(借入金の返済)にあてる割合を示しています。

つまり、地方自治体が自力で返済をする能力を表す指標です。

本市の起債制限比率は、県内平均を超えています。新たに借りる市債の額をその年の償還元金(既に借りた市債の元金返済金)以下にするなどの抑制に努めた結果、平成27年度の起債制限比率は単年度、3カ年平均ともに10.8%となっております。

新たに借入れる建設事業のための市債を、平成26～29年度までの4カ年平均で、償還元金の90%以下に抑制することを目標として、今後も公債費の削減に努めてまいります。

起債制限比率の推移(3カ年平均)



年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
横須賀市 (単年度)	11.4	11.4	11.3	11.7	12.2	12.3	12.7	11.7	11.9	11.2	10.9	10.9	10.7	11.0	10.8
横須賀市 (3カ年平均)	12.2	11.7	11.4	11.5	11.8	12.1	12.4	12.2	12.1	11.6	11.3	11.0	10.8	10.8	10.8
県内市平均 (3カ年平均)	10.1	10.2	10.5	10.2	10.2	10.0	9.7	9.5	9.2	9.2	8.9	9.5	10.4	10.2	10

※県内市平均は横須賀市を除く。

財政調整基金

財政調整基金は、地方公共団体の健全な財政運営を確保するために設置した積立金で、いわば地方公共団体の貯金です。経済事情の変動等による減収、災害により生じる予期せぬ支出・減収を埋めるときや、緊急性の高い大規模な建設事業の経費等に充てることとしています。

本市では平成12年度に設置し、平成27年度末残高は約134億7千万円となっています。

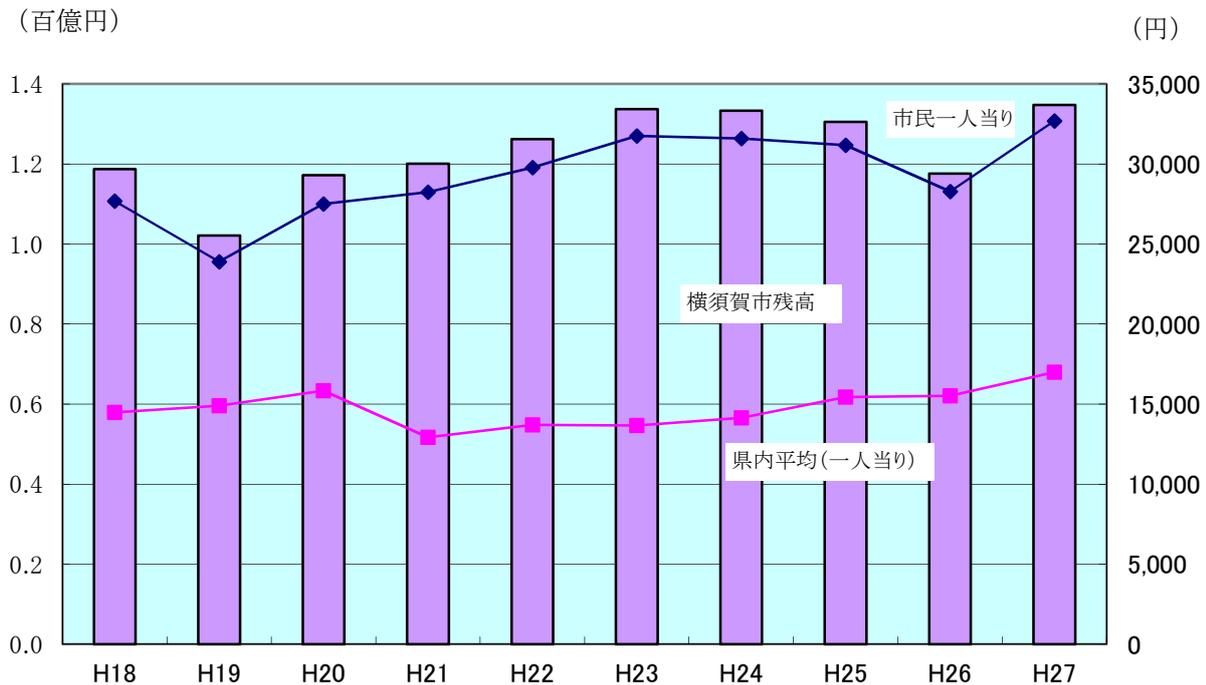
法律により前年度の実質収支については、その半分以上の額を財政調整基金に積み立てるか、市債の繰上償還の財源に充てることと定められています。本市では、平成27年度決算で生じた約32億9千万円の実質収支のうち16億5千万円を財政調整基金に積立てました。

行政改革による人件費、公債費をはじめとする経費の抑制のほか、平成20年度以降は、未利用地の売却や時限的な給与削減措置といった臨時的な要因や、普通交付税の増加等により、基金の取り崩しを抑制できたことで残高が増加傾向にありましたが、平成24年度から減少に転じておりました。

しかし、平成27年度は税収の改善や、地方消費税交付金の増に伴い、平成13年度以来14年ぶりに財政調整基金の取崩しを行わずに財源を確保したことにより、残高は前年度より約17億1千万円増加しています。

ただし、依然として厳しい財政状況の中、税収の増等は今後も続くかは不明であることから、財政基本計画に定められた財政運営方針に従い、今後の財政運営に必要な基金残高を確保するための取り組みを進めていきます。

財政調整基金残高と一人当り残高



財政調整基金残高(棒グラフ)は左軸、一人当り残高(線グラフ)は右軸で表示してあります。

※県内市平均は横須賀市を除く。